

PLAZA IMS

夏号 Vol.80
板橋中央総合病院

「プラザイムス」は、患者さま、ご家族のみなさまに院内やIMSグループの医療活動、病気に関する情報をお伝えするコミュニケーションペーパーです。



＜理念＞

安全で最適な医療を提供し、「愛し愛される病院」として社会に貢献する。

＜基本方針＞

1. 私たちは、「求められる」医療を提供するために創意工夫します。
2. 私たちは、地域連携を強化し、地域包括ケアシステムに貢献します。
3. 私たちは、コミュニケーション能力を備えたプロフェッショナルな職員を育成します。
4. 私たちは、情報技術を最大限に駆使して「未来から選ばれる病院」を目指します。
5. 私たちは、病院内に痛みや苦しみがなくなるように全力を尽くします。

板橋中央総合病院公式 SNS



〒174-0051 東京都板橋区小豆沢 2-12-7

都営地下鉄三田線「志村坂上駅」下車 A1 / A3 出口より徒歩 1 分

03-3967-1181 (代表)

<https://ims-itabashi.jp/>



病院受診、入院・介護施設選びに困ったら
イムス総合サービスセンター(GSセンター)へ



STEP 1 相談 GSセンターにお電話かHPのメールフォームでご相談を! 相談窓口専任スタッフがみなさまのお悩みをお伺いします。

STEP 2 情報提供 IMSグループ医療機関の選定、医療機関・制度などの情報提供。GSセンターで可能なコーディネート内容の紹介など。

STEP 3 受診決定 ご希望とマッチングした際、IMSグループ医療機関へ受診決定! 【外来受診】受診希望施設へ受診日・時間(予約含む)・対象者さま基本情報等の連絡 【入院(所・居)・転院】希望施設の医療福祉相談室担当者を紹介

好評配信中
疾患別セルフチェック

健康セルフチェック



gscenter@ims.gr.jp

◎右のQRコードをご利用いただくと便利です。
◎24時間365日受付。2営業日以内にご返信します。



0800-800-1632

※ [050]からはじまるIP電話および国際電話からはご利用いただけません。
受付時間 / 平日 8:30~17:30 土曜日 8:30~12:30(日祝・年末年始休み)

イムス総合サービスセンター
<http://www.ims.gr.jp/gscenter/>

CONTENTS

夏に多い子どものお病気

お子さまの発達や成長にご不安はありませんか?
特集 小児内分泌専門外来

Itachu News

小児科外来・小児科病棟アンケートを
開始しました!

夏に多い子どもの病気

健康な夏を過ごすための知識と対策

暑い夏は、子どもたちが外で活発に遊ぶ機会が増える一方で、特有の病気や体調不良が発生しやすい季節でもあります。ここでは、夏に多い子どもの病気について、その特徴や予防策、対処法まで解説します。正しい知識を身につけることで、子どもたちが元気に楽しい夏を過ごせるようにしましょう。

手足口病

手足口病は、エンテロウイルス属（主にコクサッキーウイルスなど）によって起こる感染症です。乳幼児から小学生まで幅広い年齢層の子どもに多くみられ、夏から初秋にかけて流行します。

- 症状：発熱、口内や手・足・おしりなどに水疱性の発疹が現れる
- 感染経路：飛沫感染、接触感染、便を介した経口感染
- 対策：手洗いの徹底、タオルの共有を避ける、登園・登校の可否は医師の指示に従う



プール熱（咽頭結膜熱）

プール熱はアデノウイルスによる感染症で、感染力が強く、プールの水以外でもタオルや箸の共有などでも接触感染し、乳幼児や小学生に多く発症します。

- 症状：長引く高熱、のどの痛み、結膜炎（目の充血や痛み）、全身のだるさ
- 感染経路：タオルの共有、プールの水、飛沫感染、接触感染
- 対策：プール後は目や顔をよく洗う、手洗い・うがいの徹底、タオルの共有を避ける、解熱後3日間は登園・登校を控える

ヘルパンギーナ

ヘルパンギーナは、主にコクサッキーウイルスA群による急性ウイルス感染症で、夏の代表的な子どもの病気の一つです。

- 症状：突然の高熱、のどの奥に小さな水疱や潰瘍ができ、強い痛みを伴う
- 感染経路：飛沫感染、接触感染、便を介した感染
- 対策：十分な水分補給、手洗いの徹底、栄養バランスのとれた食事

食中毒

気温が高くなると、細菌の繁殖が活発になり、食中毒のリスクが高まります。特に子どもは抵抗力が弱いため注意が必要です。

- 症状：吐き気、嘔吐、下痢、腹痛、発熱
- 原因：汚染された食べ物や飲み物による細菌やウイルスの摂取
- 対策：食材の保存・加熱の徹底、調理器具や手の衛生管理、お弁当の食材選びに注意する

熱中症

夏の強い日差しや高温多湿の環境では、熱中症になるリスクが非常に高まります。自覚症状があらわれにくいことも多く、周囲の大人が注意深く見守ることが大切です。

- 症状：めまい、吐き気、頭痛、重症例ではけいれん、意識障害
- 原因：高温多湿の中での運動や遊び、水分・塩分不足
- 対策：こまめな水分・塩分補給、直射日光を避ける、涼しい場所での休憩

虫刺され・かゆみ・アレルギー反応

夏は蚊や蜂、ダニなどの虫が増える季節です。虫刺されによるかゆみや腫れ、場合によってはアレルギー反応を引き起こすこともあります。

- 症状：かゆみ、腫れ、赤み、重度の場合は発熱や呼吸困難
- 対策：虫よけ対策の徹底、長袖・長ズボンの着用、刺された場合の早期対応

とびひ（伝染性膿痂疹）

皮膚にできた小さな傷から細菌が侵入し、水ぶくれやかさぶたが広がる感染症です。高温多湿の夏に子どもたちの間で流行しやすいです。

- 症状：水疱やかさぶた、皮膚の赤み、かゆみ
- 対策：患部を清潔に保つ、爪を短く切る、こまめに手を洗う、早めの受診

夏風邪

夏でも風邪のウイルス（アデノウイルス、エンテロウイルスなど）が流行します。エアコンの効いた部屋と外気温の差により体調を崩すこともあります。

- 症状：鼻水、咳、のどの痛み、発熱、倦怠感
- 対策：規則正しい生活、十分な睡眠、バランスの取れた食事、エアコンの温度管理

予防のポイント

夏に多い子どもの病気を防ぐには、日々の生活習慣と衛生管理が重要です。

- 外出や遊びの後、食事前には必ず手洗いをする
- 水分と塩分をこまめに摂る
- 食べ物の保存や管理に注意し、新鮮なものを選ぶ
- エアコンの使いすぎに注意し、室温と湿度の適切な管理を心がける
- 虫よけ対策や日焼け止めを活用する

夏は楽しいイベントが多い季節ですが、その子どもたちの健康に関するリスクも高まります。手洗いや衛生管理、適切な水分・栄養補給、体調の変化に注意し、早めの対応を心がけましょう。保護者や周囲の大人が正しい知識を持つことで、子どもたちが安全で健やかな夏を過ごせるようサポートしましょう。

特集

お子さまの発達や成長にご不安はありませんか？

小児内分泌専門外来

小児内分泌専門外来では、成長や発達、ホルモンに関する様々な疾患やお悩みに対して、専門性の高い医療を提供しております。お子さまの健やかな成長とご家族の安心のために、経験豊富な医師がサポートいたします。

小児内分泌とは？

小児内分泌は、成長ホルモンや甲状腺ホルモン、副腎皮質ホルモン、性ホルモン、糖代謝など、体の発育や代謝にかかわるホルモンの異常やバランスの乱れによる疾患を専門的に診断・治療する分野です。成長障害、思春期異常、甲状腺疾患、糖尿病など、幅広い疾患を対象としています。

対象となる主な疾患と症状

- 成長障害：平均よりも身長が低い、急に伸びなくなった、または急激に伸びた場合など
- 思春期異常：思春期が早すぎる、遅すぎる、または性徴の進行にばらつきがある場合
- 甲状腺疾患：バセドウ病、橋本病、甲状腺機能低下症、甲状腺腫大など
- 糖尿病：小児1型糖尿病やその他の糖代謝異常
- 副腎疾患：先天性副腎過形成や副腎機能低下症など
- 性分化疾患：生まれつき性器の発達に関する異常がある場合
- その他：肥満症、低血糖症、カルシウムやリン代謝異常など

診察の流れ

初診時は、お子さまとご家族の問診を丁寧に行い、成長・発達の経過や気になる症状について詳しく伺います。右記の検査結果をもとに、的確な診断と治療方針をご提案いたします。

- 血液・尿検査（ホルモン値、代謝指標の評価）
- 骨年齢レントゲン撮影
- 超音波検査（甲状腺、腹部、副腎など）
- 負荷試験（成長ホルモン分泌刺激試験など）

治療とサポート

疾患ごとに適切な治療を行います。
 成長ホルモン分泌不全の場合・・・成長ホルモン補充療法
 甲状腺疾患の場合・・・ホルモン補充や抑制療法
 糖尿病の場合・・・インスリン療法や生活指導
 また、治療だけでなく、保護者の方への丁寧な説明と心理的な支援も重視しています。
 お子さまの将来を見据え、学校生活やスポーツ参加、日常生活における配慮やアドバイスも積極的に行い、成長発達を長期的にサポートします。



ご予約と受診について

小児内分泌専門外来は予約制です。初診・再診ともに、お電話または小児科外来受付でご予約いただけます。他院からの紹介状をお持ちの場合はご持参ください。急な症状変化や緊急時には、まずはお電話でご相談ください。

当外来を受診される方へ

お子さまは成長や発達の過程が一人ひとり異なります。ちょっとした変化やご心配でも、お気軽にご相談ください。私たち小児内分泌専門外来スタッフ一同、お子さまの健やかな成長をサポートするため、誠心誠意努めてまいります。

よくあるご質問

- Q. どんな場合に受診したらよいですか？**
A. 身長や体重の伸びが気になる、思春期の進行が早い/遅い、体重が急激に増減した、のどの腫れやだるさが続く、頻繁にのどが渇く・尿の回数が多いなどの症状がある場合は、早めの受診をご検討ください。
- Q. 検査や治療はどのくらい時間がかかりますか？**
A. 初診時は問診・診察に加えて必要な検査を行うため、1~2時間程度かかる場合があります。治療内容によって通院頻度や期間は異なりますが、継続的なフォローアップを行います。
- Q. どのようなスタッフが対応しますか？**
A. 小児内分泌を専門とする医師、看護師、栄養士など、多職種が連携してサポートいたします。チーム医療でお子さまとご家族に寄り添います。

お問い合わせ先

ご予約・ご質問は、小児科外来受付窓口またはお電話にて承っております。詳細は当院ホームページをご覧ください。お子さまとご家族が安心して過ごせる毎日を、私たちがお手伝いします。

板橋セントラルクリニック 2階 小児科
〒174-0051
東京都板橋区小豆沢 2-16-15
03-3967-1268(代表)



平日は忙しくてなかなか病院へ行けない！を解決！

土曜午後外来開始しています！

2025年4月から小児科の土曜午後外来を開始しました。平日受診できないご家族のために、土曜17時まで診察時間を延長しております。土曜午後外来は、発熱、咳、腹痛などの一般外来以外に、小児アレルギー専門外来、小児内分泌専門外来、予防接種なども実施しております。

